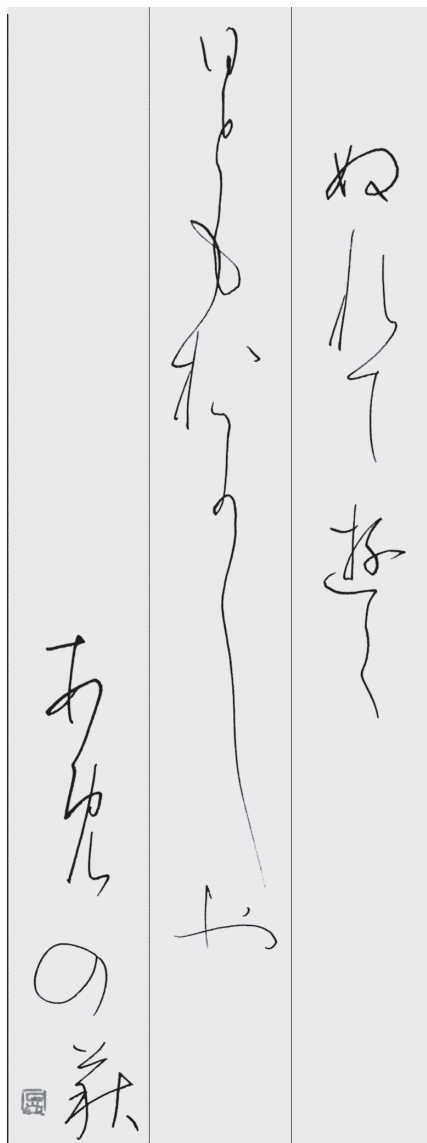


憲照先生の手本ア・ラ・カルト(9)
(à la carte)

締切り 九月二十四日(必着)

昭和60年11月



つけペン・墨汁使用

〔古筆参考〕

遊ゆ 於お 可か 免め
遊 於 可 免
遊 於 可 免
遊 於 可 免

ぬれてゆくひともおかしやあめの萩

■文字の変換・配字は自由です。

- ◎ 本会は、今年で創立六十六周年を迎えます。昨年はコロナ禍で、世界中が混乱に陥り、本会としても過去にない大打撃を受けました。しかしながら諸先生、会員の皆様の「書」への意欲は消えることなく、時間と共に基本的活動は戻りつつあります。
- ◎ この現状を踏まえ、今年の短期特別課題は、『原点回帰』をテーマとして、本会の創設者奥村憲照先生の手本を改めて学び直すことにいたします。お手本は、硬筆、毛筆、一般部、教育部なども合わせれば相当数あります。一種類を四ヶ月交替で掲載していく予定です。
- ◎ 多くの方がかつて憧れた憲照先生の書と向き合うことで、書への情熱を今一度燃え上がらせていただければと思います。
- ◎ 創立七〇周年に向けて、力強く歩んで行きましょう。

〔作品の出し方〕

- ▼ 今回も硬筆部だけに限ります。全員本会段位用紙に書いて下さい。硬筆を習っていない方も、出品は可能です。ご自由にどうぞ。
- ▼ 硬筆ならば用具は自由ですが、線美を追求のためには、つけペン・墨汁をお薦めします。
- ▼ 出品制限の対象とはなりません。
- ▼ 事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績を、作品余白にお書き下さい。
- ※ 不明な点は無記入でも結構です。
- ▼ 優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。
- ▼ 月例作品と同封する場合は、必ず別のビニール袋に分け、表に「月例」「短期特別」と明記して混同しない様をお願いします。

▼ 松尾芭蕉(一六四四～一六九四・江戸中期の俳人。伊賀の国、上野の武士の家に生まれた。それまで遊戯と考えられていた俳諧を、すぐれた文学に高めた功績は大きい)

濡れて行く人もおかしや雨の萩

▼ 雨中の萩の花はひとしおあわれ深いが、花の中を雨にぬれて行く人も、また風情がある。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔変換例〕

人生減省は則脱
暢びよく
暢びよく
丸み

▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。

人生一分を減省せば
則ち一分を超脱す
菜根譚

新井龍峰書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕

決意遅実迅速

	実	決
	行	意
ド	は	は
ラ	迅	遅
イ	速	く
デ	な	と
ン	れ	も

古田瑞苑書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★決意は：（書体Ⅱ楷書）

ドライデン（一六三二～一七〇〇）

イギリス王政復古期の詩人

決意した時が、一番やる気がある時
で集中力が発揮できます。

重大なことを決意するまでは、時間
がかかることもあります。一度決意
したら、やるべきことは迅速に行いた
いものです。

時には勢いも大切でしょう。

◆10月課題予告（行書）

とかく人間は

忙しい時程

仕事がよく出来る

★人生：（書体Ⅱ行書）

菜根譚（明末の処世哲学書）

著者は明末の儒者（洪応明）

人生は、何事につけ、減らす事を考
えれば、それだけ俗世間から脱け出す
事が出来ると菜根譚は言っています。
減らす事を考えず、増やす事ばかり
考えている者は、やたら雑用ばかりが
増えて、この人生をがんじがらめにし
ているのではないのでしょうか。

◆10月課題予告（楷書）

敵を量りて後に進み

勝つを慮りて

後に会す

▼教範・書範Ⅱ行草または草書
▼師範Ⅱ行書

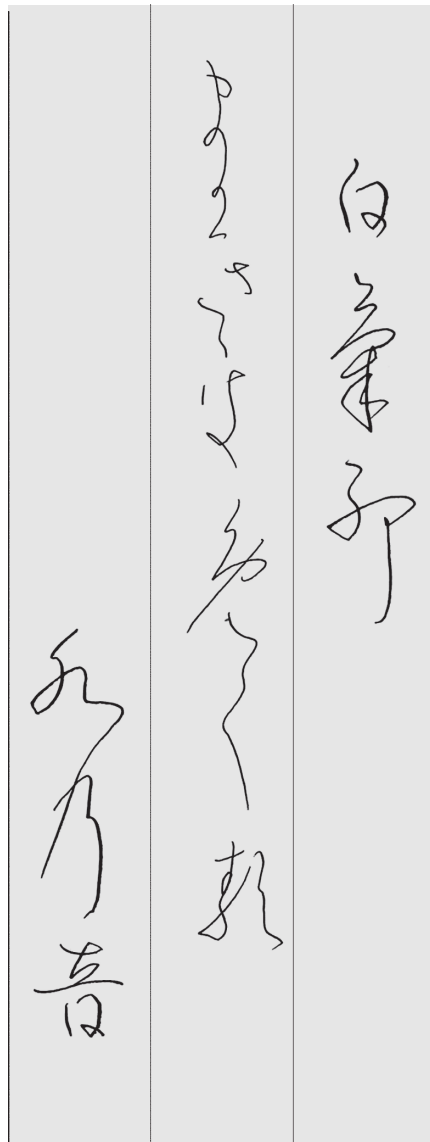
一般部かな課題

締切り 9月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

白菊ぎくや籬耶ま可き乎免類をめぐる水乃の音

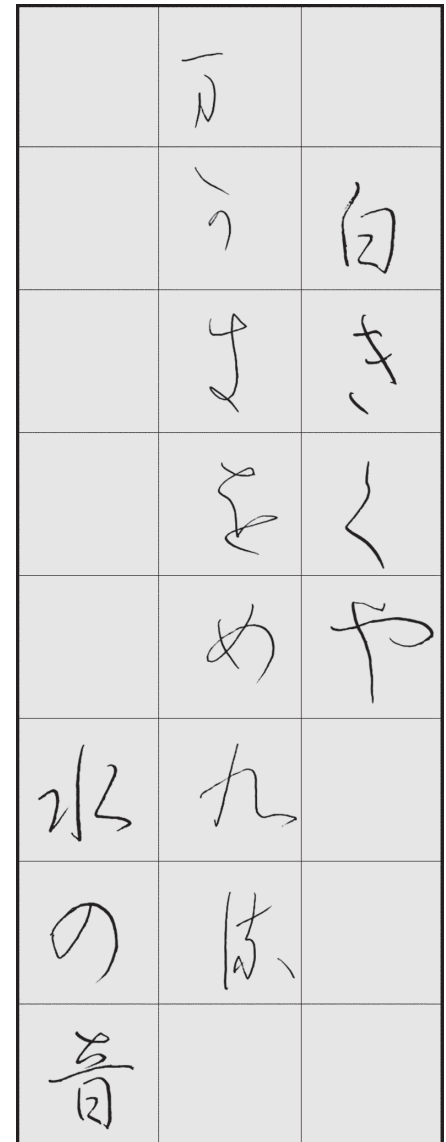


た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

白万可支ぎくや籬九流をめぐる水乃の音



た なか き こう 書
田 中 貴 光

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

◆10月課題予告

かりがねの重なり落つる山やま辺べかな

(三浦栲良)

【解説】へやのゝと連綿にする時は、へやのゝの最終画は右下へ下げないで、右上に上げてへやのゝにながて書く。

可か 可か 可か 可か 可か
支し 支し 支し 支し 支し
乎こ 乎こ 乎こ 乎こ 乎こ
免め 免め 免め 免め 免め
類る 類る 類る 類る 類る

【古筆参考】

白まがきぎくや籬まがきをめぐる水乃の音
(勝見二柳) かつみじりゅう
【句解】澄みきった秋の空に、白菊の花が咲き匂におっている。その白菊の咲く籬をめぐって流れる音が聞こえてくる。
▽籬まがき—竹や柴しば(木の小枝)などで粗く作った垣かき。
【鑑賞】景は小さいが、白菊の白さを視覚にすえ、その芳しい香りを楽しみ、涼しげにかすかな音をたてて籬をめぐりゆく流れに耳を傾けるこの句には、いかにも〈秋の清澄感〉があふれている。

締切り 9月24日(必着)

花みずきの葉が早くも色づいて、
赤い実をつける季節となりました。
探しておりました念願の古民家を
譲り受け、雑貨店を兼ねた私達の
新居が完成しました。田舎暮らしを
体験に是非一度お越し下さい。

花みずきの葉が早くも色づいて、
赤い実をつける季節となりました。
探しておりました念願の古民家を
譲り受け、雑貨店を兼ねた私達の
新居が完成しました。田舎暮らしを
体験に是非一度お越し下さい。

※手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

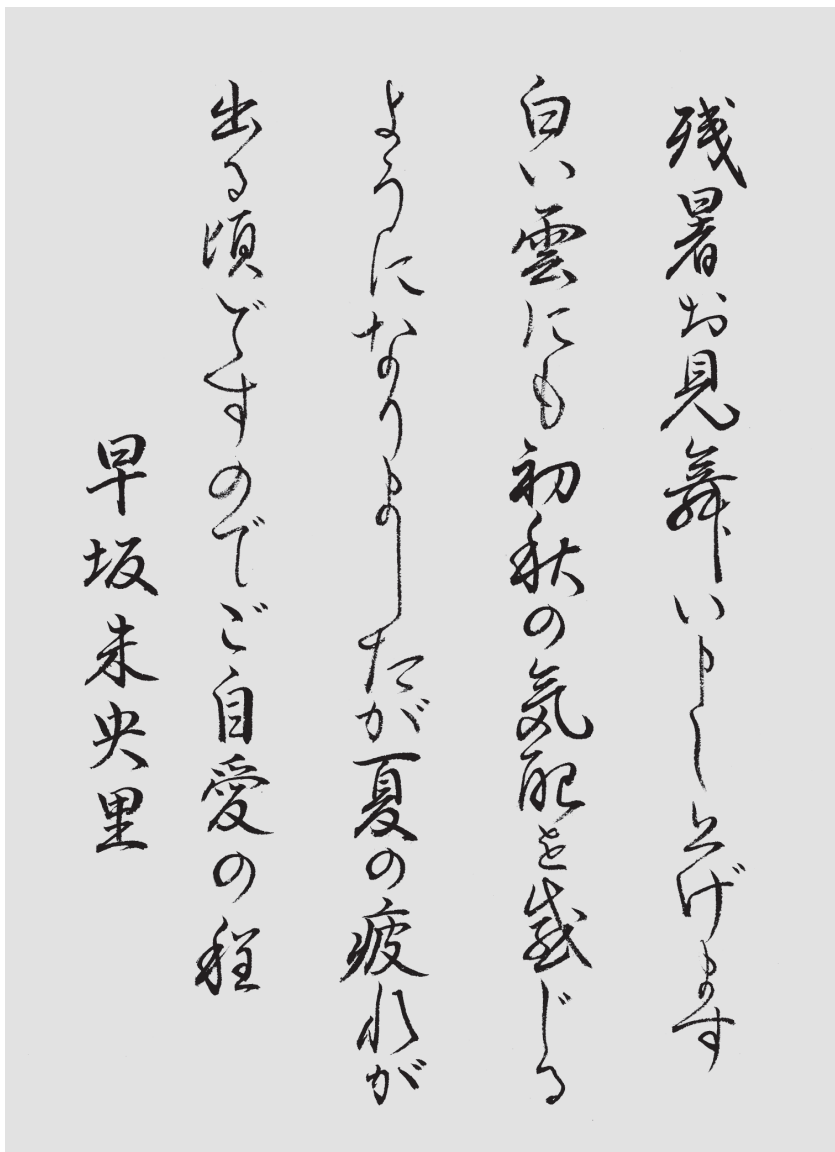
夢二の描く情緒的な絵は、明治末
から大正の若者にもてはやされた。

長野県千曲市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

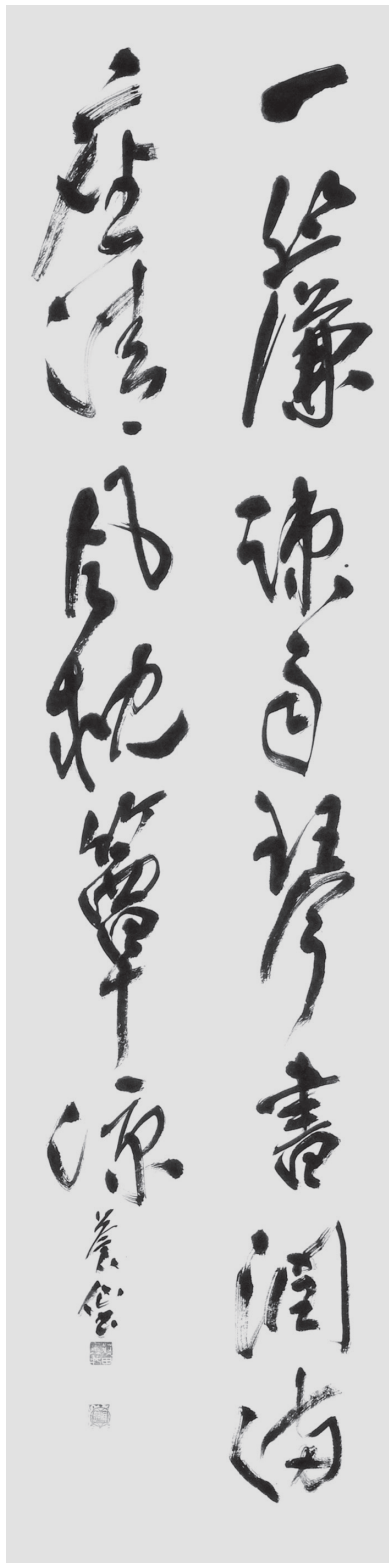
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

伊 藤 梅 香 書



いちれんのそうきんしょうるおい
一簾疎雨琴書潤

まんざのせいふうちんでんすずし
満座清風枕簟涼

締切り 九月二十四日(必着)

半切 (一三六cm × 三五cm)

萩 田 蒼 仙 書

〔大意〕すだれ一面に
そそぐ雨で琴も書もし
めり、座敷に吹き満つ
清風は竹席の上の午睡
も涼しい。

初出品の方へ

支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

〔条幅解説〕

細身を意識して枚数を重ね、先ずは出来たと思っ
て吊ってみると、自分の性格の弱い所が顔に見えて
可成り書き換えてみましたか？

残暑お見舞い申し上げます
白い雲にも初秋の気配を感じる
ようになりよ すが夏の疲れが
出る頃ですのぞご自愛の程

(ご自分の氏名)

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
- 成績(天位〜5等)は、評価により毎月かわり
ます。
- 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

新入から1級まで(楷書)

須田 一葉書

空山野
菊新

〔解説〕

空
山
野
菊
新

〔読み〕 空山に野の菊新なり
〔大意〕 誰もいないひっそりとした山に野菊が咲きはじめた。

◎上達のポイント：ハネ、ハライ

ハネ、ハライは案外難しいものです。
ハネは曲げる位置で押さえ過ぎないよう、少し浮かせて方向転換します。
広い角度でゆっくりはねて筆先をきれいに出すことが肝要です。

【例】 子力行句 良衣×手

・ハライはのびやかに！

起筆を入れたらハライの方向に同じ位置で中心移動し、筆を立てたままはらうと筆先が揃います。

側筆(なで筆)にしないよう、筆の中心が線の中心を通るよう、筆を最後まで立てたままはらいます。

指導者の書き振りを良く観察し、時には手を持ってもらうのも良いでしょう。

◆10月課題予告(行書)

秋聲天
地間

準初段から師範まで

新井龍峰 臨

馬至如鍾聲

馬至如鍾聲

馬至如鍾聲

〔出典〕書譜（六八七）
〔筆者〕孫過庭（六四八？～七〇三？）
〔読み〕鍾繇の隷に（奇に、張芝の草に聖なるが）如きに至りては、

〔解説〕

馬至

如鍾

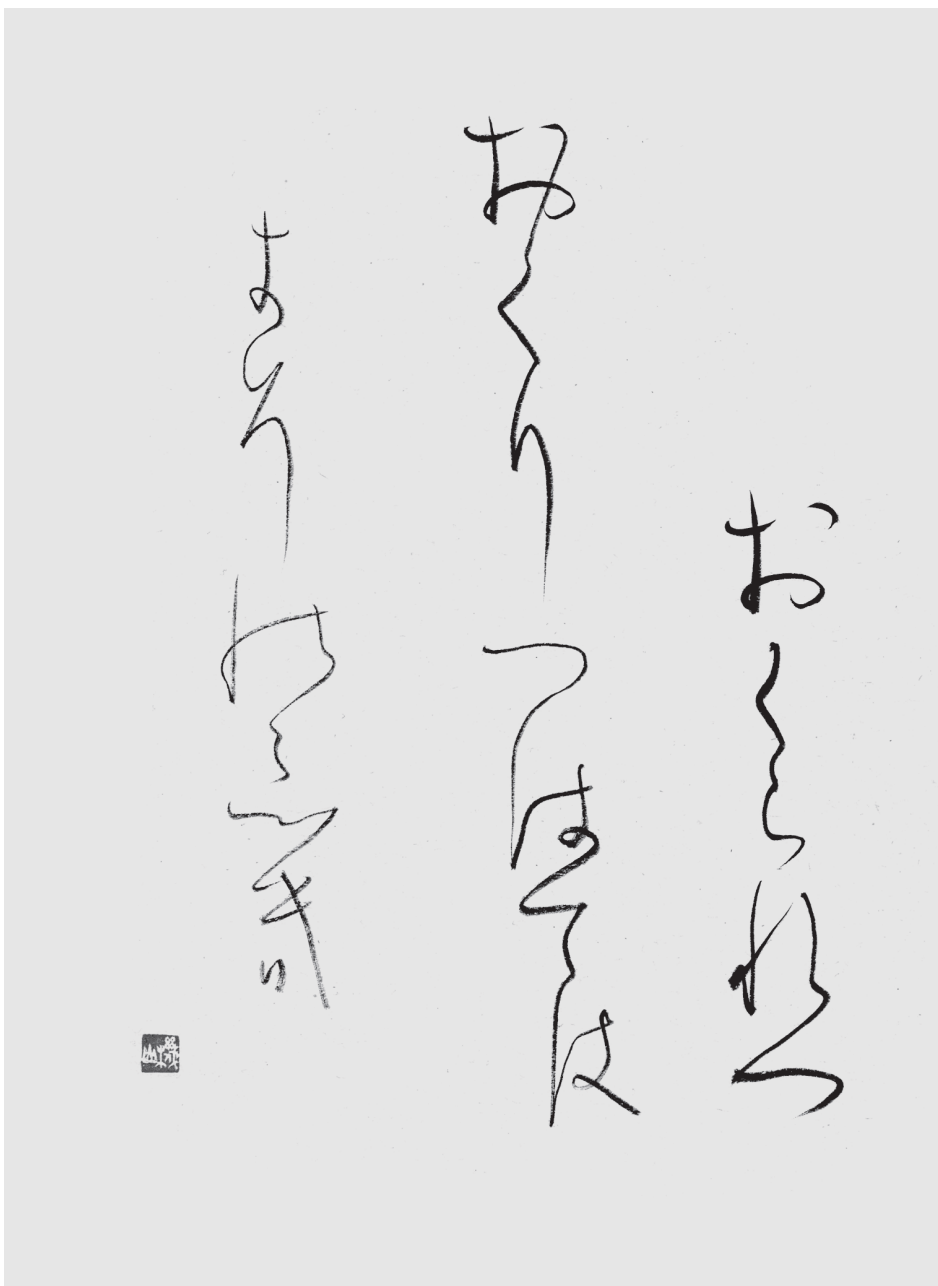
聲

◆10月課題予告

何等級
於是眇

新入から1級まで

浅井機山先生書



おくられつ おくりつ 果ては木曾の秋

松尾芭蕉

〔句意〕

元禄元年更科紀行の折の句。今までは人に送られたり、送ったりして来たが、その旅の果てに木曾の秋を訪ねることだ、の意。

◆10月課題予告

白樺を幽かに霧のゆく音か

〔解説〕

まず全体を見てみましょう。

3行で並んだ字数は、5字、7字、5字で書いて、最後の5字を変体仮名で書いています。

平仮名の中に、「お」「く」「つ」「は」は2回ずつ出てきますが、同じように変化させています。

それでは、1行1行見ていきましょう。

「おくられつ」

「お」へ上空から叩くように「ち」よつと突くように入って、第1画の横線を引きします。いったんまた上空に上がって第2画を叩くように入って、切り裂くように鋭く直線を引きします。へ角でしっかりバネをかけ、ゆっくり回り、右の曲線は遅く回って軽やかに跳ね上げます。点は上空から入り上空へ跳ね上がります。

「く」上の「お」のご真ん中を突き刺す(蔵鋒)ようにし、「ら」までうねうねしながら流れを作ります。

「おくりつはては」

この1行、真ん中より上はゆったり、下は詰まっています。へ時間の粗密の変化

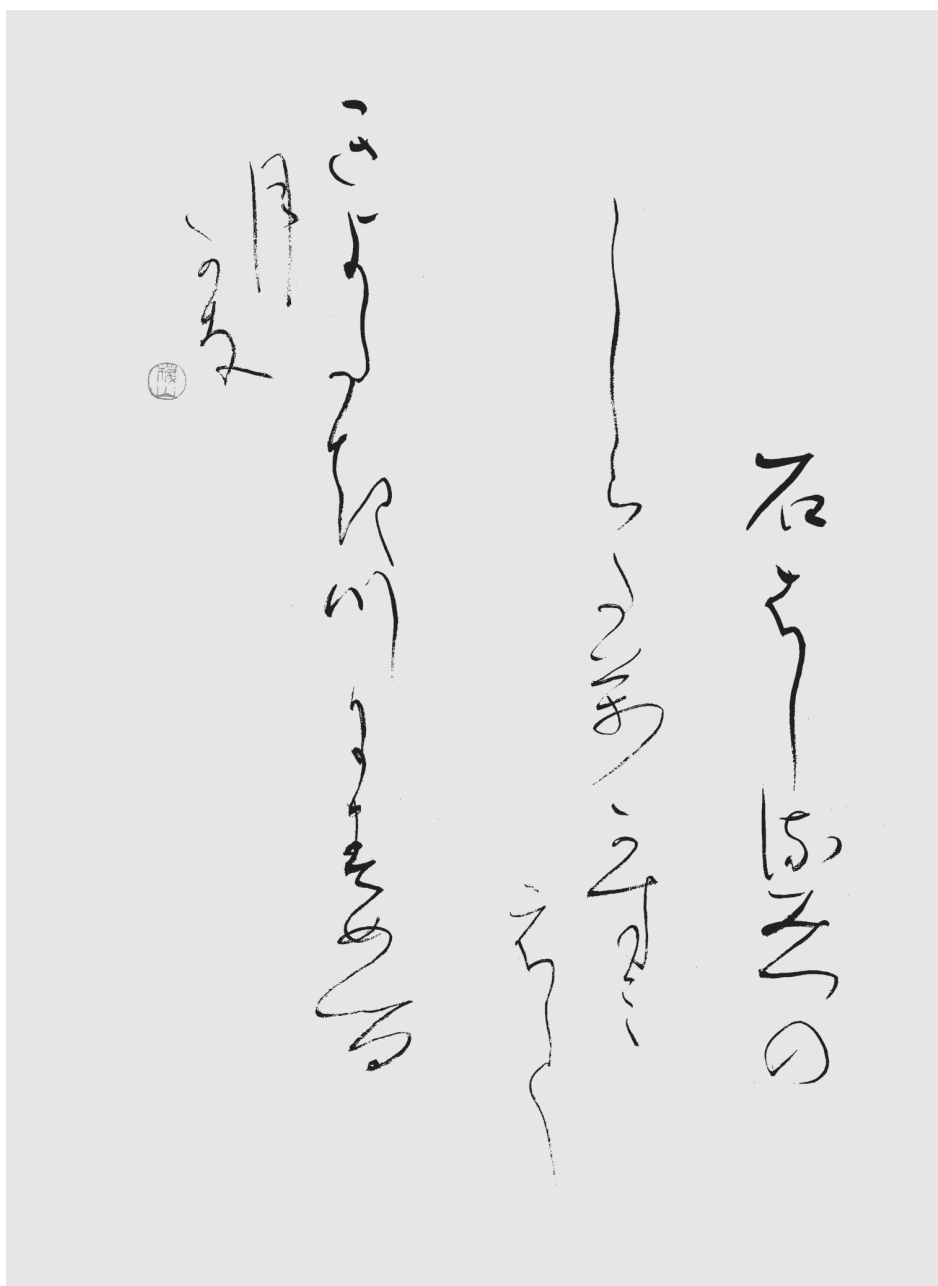
「お」の点から「り」まで力強くゆったり書き流します。細くして「つ」は、上を軽やかに受け止め、「は」の第1画まで行きます。角でしっかりバネをかけ、最後の「は」はこの1行を格好よく踏ん張ります。

「支曾能悪幾」

字形をよく捉えて自然体で書き終えます。

準初段から師範まで

浅井機山先生書



石^{いは}は^者流^流る^みる^つ水^みの^づし^ら玉^たか^ず見^みえ^て

き^多よ^起た^多き^可川^寸に^三す^留め^可る^奈月^可か^奈な

〔歌意〕

岩の上を水が走り流れるその水のしぶきの数まで見えるほどに、清滝川に明るくさす月の光よ。

◆10月課題予告

乗鞍はさやくく白しにこりたる

なべてが空にただ一つのみ

〔解説〕

料紙は、鳥の子紙（雁皮）に、具引き（胡粉と膠を溶いた顔料）をうすい鼠色で刷毛染めし、下の方はうすいピンク色にしている。乾かないうちに版木の上にのせ模様を取っている。乾いてから、きらきら光るキラ（雲母）を市松模様にしてある。

まず全体を見てみましょう。

料紙は刷毛目が縦横について粗い感じになっています。表面を少しなめらかにすると書きやすいのですが、あえて粗いまま書いてみましたので、細い線がきれいには出ていません。

「石者し流みつの」

「石」、第1画、第2画をじっくり力強く書き、「口」は軽やかに書いて1字の中で変化をつけます。「者し」は字幅狭く「石」を受け、「流みつ」で幅広く受け、「の」で細めにして軽やかに動きます。

「しら多萬可す三え呂」

「しら多」、広い余白に揺らぎを持ちながら書き進めます。「萬」で大きな動きを作り、「可」は上の流れをしっかりと受けて、大きめに書いた「す」につなぎ、点がくるっと回ってから「三」へつなぎ、小さく書き終えます。「え呂」と、前2行に添えて、いい位置におさめて前半を安定させます。

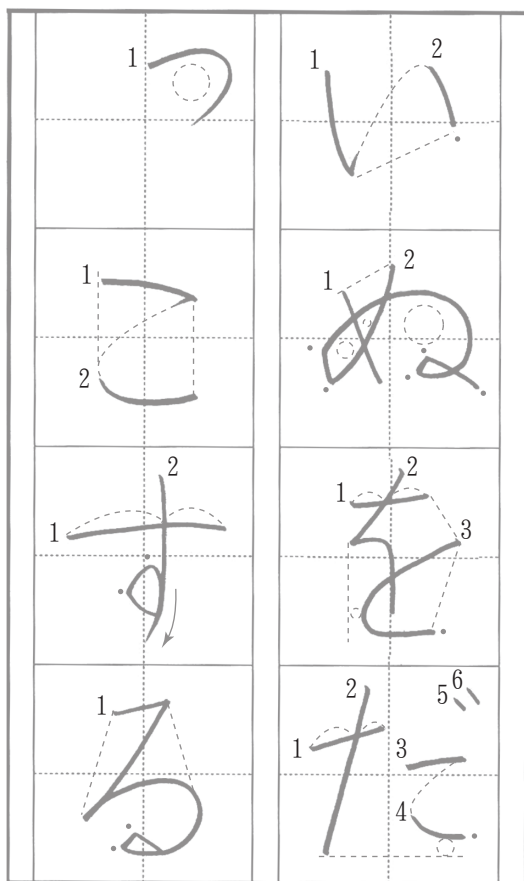
「きよ多起川尔春め留」

力強く字間をゆったりしながら書き始め、おおきな「起」と「川」をつめて1行のアクセントにします。

「月可奈」

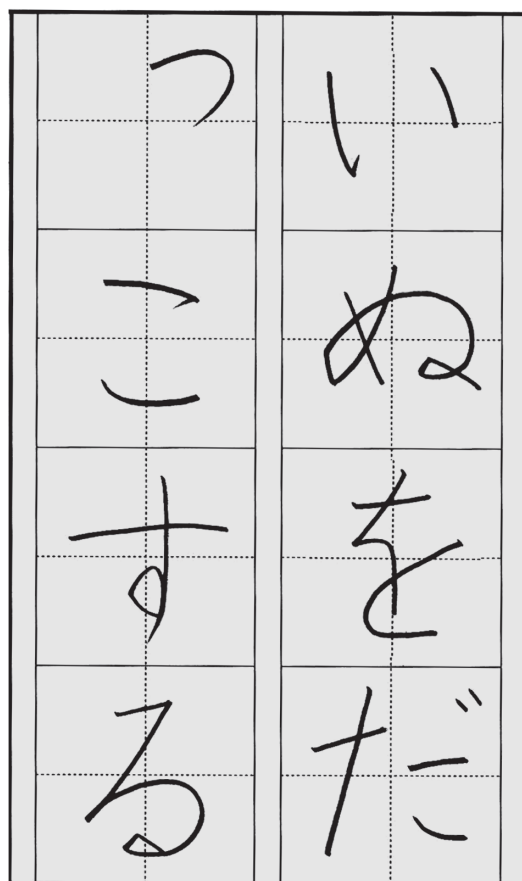
上のいい位置に書き添えて終わります。

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)



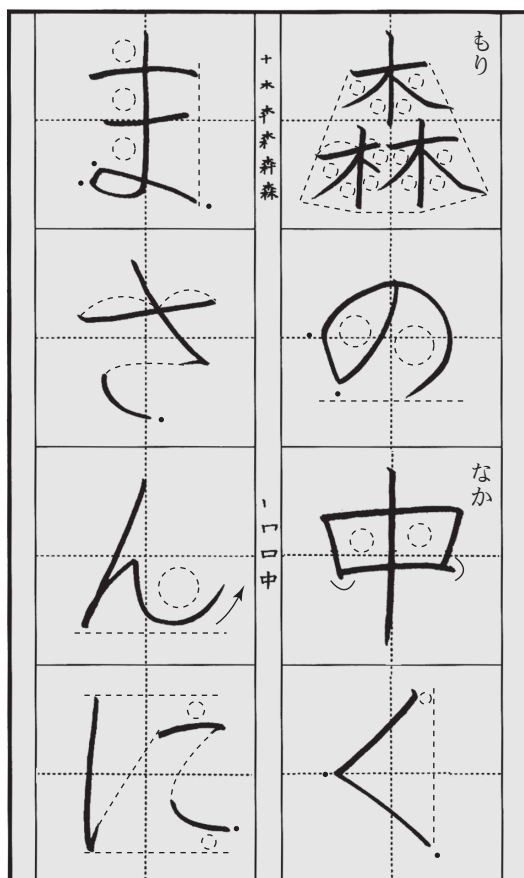
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



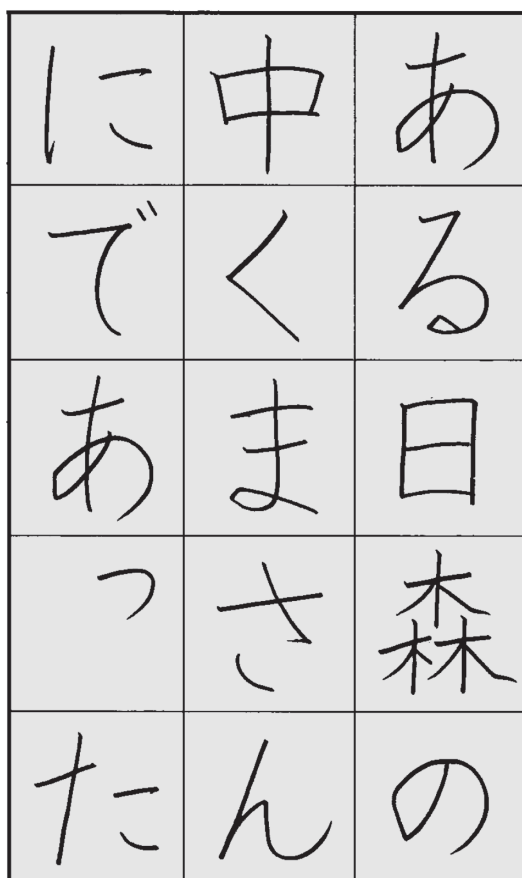
よ
う
年

幼年〜小三年まで
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

を	一丁千王玉	玉	たま
食	た	子	こ
べ	ッ了子	や	
た		き	

新入1級

食	玉	朝	小二年 準初段以上
べ	子	ご	
ま	や	は	
し	き	ん	
た	を	で	

い	いりり鳥鳥	鳥	とり
育	そだ	か	
て		ご	
る	イイ何但伊使	使	つか

新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

コ	ニ	鳥	小三年 準初段以上
を	羽	か	
育	の	ご	
て	イ	使	
る	ン	い	

〈用具〉自由(黒色に限る)

て	改
見	札
送	口
る	ま

新入1級

ま	友	電
で	を	車
見	改	で
送	札	帰
る	口	る

小四年
準初段以上

小四年以上
岡嶋桂川書

買	次
音	授
楽	業
室	全

解説(よく見て習いましょう)

へ	全	次
移	買	の
動	音	授
す	楽	業
る	室	は

小五年
(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具〉自由(黒色に限る)

トウ 当	えき 駅
リョ 旅	マク 幕
コウ 行	うち 内
ザッ(シ) 雑	ベン 弁

解説(よく見て習いましょう)

雑	弁	駅
誌	当	で
を	と	幕
買	旅	の
う	行	内

小六年

(全員)

訓	で	今
練	地	年
に	域	も
参	防	家
加	災	族

中二・三年

(行書)

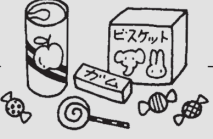
紅	か	赤
葉	に	く
の	染	色
里	ま	鮮
山	る	や

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題 後 藤 友 泉 書

し	お	し	楽	来
よ	や	て	し	週
う	つ	い	み	は
か	は	た	に	
な	何	遠		
	に	足		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 9月24日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題 江 本 由 泉 書

読	少	歴	大	秋
ん	し	史	好	の
で	で	小	き	夜
み	も	説	な	長
た	多	を		は
い	く			



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二

玉子

さい

る

幼年／小二年
酒井智仔書

玉

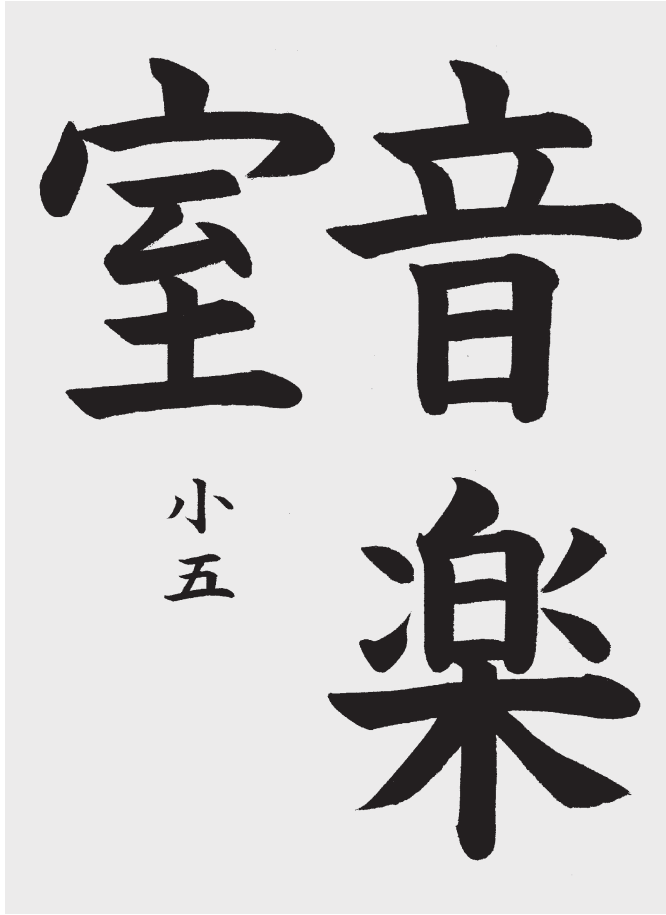
る

子

ま

小一

くま



小三〜小五年
水野碧友書

中二
訓防
練災

小六
買駄
う弁

小六・中二・三年

たま
樹
しょう
華
か
書

葉

駄

訓

中心
弁

練

紅

※行書は線の連なりを大切に！

中一
の紅
山葉

専務理事会報告

七月十六日（金）、午前九時半から土岐市文化プラザにおいて県内の専務理事以上の幹部役員により会議を行いました。

このコロナ禍の中、専務理事会を開催するには難しい面もありましたが、奥村暢之会長のご逝去に伴い、早急に対処すべき事項があり、この日の開催となりました。

なお、当日集まっていたきました役員以外にも、ご相談すべき方が多数ありましたが、その他の機会にお願いすることとして、幹部役員としての基本方針を打ち出すことを主な議題として話を進めました。

以下会議の結果をご報告申し上げます。

記

一、代表理事の件

代表理事、奥村暢之会長のご逝去に伴い、『大書心誌発行印刷所』『リンクスグループ』代表取締役社長の小泉薫様に後任をお願いしたところ、快く引き受けて下さいました。

幹部の先生方の異論もなく、代表理事の任に当たっていただくことに決定しました。

会社としては、今まで通り、何も変わりませんでご安心下さい。

一、正会員会長後任の件

本来ならば、会長職を置くべきところではありますが、今後は会長・副会長職を廃止し、正会員のトップを理事長とすることに決定いたしました。

（会長の遺言と副会長の希望により）

一、正会員規約改正

理事長トップ体制により、正会員規約第3章第7条1・2・3、第8条1・3、第4章第9条1・2、第5章第14条、第6章第16条が変更となります。

（詳細は来年の常任理事会にて）

一、正会員だよりの件

毎年三回発行しておりましたが、来年より年一回のみとする。

一、手本執筆等の件

奥村会長が最後まで担当されていた毛筆漢字段位手本は、現在毛筆漢字級位手本担当の須田一葉師範が、毛筆漢字級位手本は澤幸寿先生が新たに担当することになりました。（11月号より）

今後、師範の先生方には手本執筆等様々なお願いをすることもあるかとは思いますが、その節は宜しく願います。

一、諸行事の件

来年の3月21日に予定しておりました総会は中止にし、午前中の常任理事会のみ開催します。

また、毎年5月の連休中に開催されておりました席書大会につきましては、残念ながら廃止いたします。

その他、ペン字展等につきましては、未定です。

長期的展望、あるいは細部にわたる見直し等については、来年の常任理事会において、広く意見を聞き、逐次検討していくことにいたしました。

なお当日の出席者は次のとおり。

佐藤碧山・澤静雨・新井龍峰・奥田三雲・水野香竹・玉樹小華・須田一葉・澤幸寿・岡嶋桂川・土本忠正（事務局）

会長先生亡き後、先生のご遺志を継いで大書心会をさらに発展させていくことが、先生に親しくご指導、ご厚誼いただいた我々役員の仕事であると存じております。

今後は、佐藤碧山理事長を中心に幹部役員および本部事務局一同一丸となつて会の運営にあたり、軌道の発展に努力するとともに大書心会ファミリーの輪をさらに強くすべく精進いたす所存です。

何卒、皆様の倍旧のご指導ご支援をお願い申し上げます。

大書心会理事長 佐藤碧山
同幹部役員・本部事務局一同

※今後の運営等にご意見、ご不明な点がございましたら土本忠正（080-6901-7991）宛てにご連絡下さい。

代表理事就任挨拶



大書心会第二代会長奥村暢之先生の突然のご逝去の報に接し、驚きと悲しみ、やり場のない虚しさはまだ消えることはありません。

今は、ただ生前の奥村先生の大書心会発展への数々のご努力を思い返し、その功績を称え、ご苦勞様でしたと偲ぶことしかありません。

一般財団法人『書道教育 大書心会』初代会長奥村憲昭先生が創立され、破竹の勢いで斯界を席卷し、奥村暢之先生がさらに発展させてまいりました。

大書心会は中部関西のみならず、全国的な団体組織です。そこに集い腕を磨く書家、そして書道にまい進する人たちが、さらに上手な文字を書きたいと願い熱心に練習する子供たち。その熱意の場をなぐす訳にはまいりません。

大書心会発足以来の在り方を変えることなく、さらに初代会長、そして第二代会長の意志を継ぎ、さらなる大書心会の発展のためにご協力をしたいと思います。微力ではございますが、覚悟をもって尽くして参ります。

株式会社リンクス

代表取締役 小泉 薫